

計画段階評価結果一覧

【中部国際空港滑走路増設事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>中部国際空港 (愛知県) 中部国際空港 株式会社</p>	<p>○中部国際空港は、滑走路が1本であり、航空法の規定上は24時間運用可能な海上空港であるにもかかわらず、現状は連続して24時間運用できていない</p> <p>○現行のままでは、現在就航している国際貨物便や新規就航便などの多様な運航ニーズに対応した発着枠の確保が困難となる</p>	<p>現在就航している国際貨物便や新規就航便などの多様な運航ニーズに対応した発着枠の確保</p>	<p>【案1】現滑走路から東へ112.5m離れた着陸帯内に設置し、大規模補修工事後に撤去する</p> <p>①メンテナンス、大規模補修等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滑走路同士が近接しているため、誤進入防止等の観点から2本同時運用できない ・滑走路1本で運用するため、メンテナンスや大規模補修工事等の時間帯はA滑走路を使用できない <p>②経済性 総事業費:約209億円、工事期間:約4年間(撤去期間含む)</p> <p>③環境影響 空港島内に整備するため、周辺への影響の回避または低減が可能</p> <p>【案2】現滑走路から東へ210m離れた位置に設置し、大規模補修工事後も存置し使用する</p> <p>①メンテナンス、大規模補修等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滑走路同士の離隔距離が現行の基準を満たしており、2本の滑走路の同時運用が可能 ・滑走路2本の同時運用が可能であるため、メンテナンスの時間帯等においても連続して24時間運用が可能 <p>②経済性 総事業費:約140億円、工事期間:約2年間</p> <p>③環境影響 空港島内に整備するため、周辺への影響の回避または低減が可能</p>	<p>【案2】による対策が妥当(理由) 現在就航している国際貨物便や新規就航便などの多様な運航ニーズに対応した発着枠を確保することを目的に、メンテナンス等への対応、経済性等を比較したところ、案2が優位であると考えられるため</p>